

(様式1)

令和5年度自己評価表

愛媛県立野村高等学校・本校 (39)

<p>教育方針</p> <p>豊かな自然、地域社会にはぐまれながら、学科の特質と生徒の実態に即応した特色ある教育を実践する。人格の完成を目指し、調和のとれた人間性、高い知性、豊かな創造性の育成を図り、地域、社会の進展に貢献できる、主体性に富んだ広い視野を持った人間を育成する。</p>	<p>重点目標</p> <p>新しい時代をたくましく生き抜く人材の育成 ～ 地域とともに、未来を探究する ～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校生活の基本的徹底を図り、社会から信頼される生徒を育てます。 2 確かな学力の定着を図り、希望する進路の実現を目指します。 3 部活動の活性化を図り、心身ともに健康で逞しい人材を育てます。 4 地域との連携・交流を重視し、地域を愛し、地域に貢献できる人材を育てます。 5 人権意識の高揚を図り、豊かな人間性と思いやりの心を持った生徒を育てます。 6 生徒一人一人を大切に個別指導や教育相談の充実を図ります。 7 読書や芸術に親しみ、豊かな感性や自己表現力を育てます。
--	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
P T A 活動	保護者への情報発信及び学校との連携の充実	PTA行事の開催方法を研究し、コロナ禍前のPTA活動の良い面を引き継ぎ、行事を精選し活性化させる。	B	高校祭でめっちゃ×2とくさん！を昨年同様実施した。今年度はクイズ形式を取り入れ、景品も出すなどしたため、昨年度よりも多くの参加者を集めることができた。	高校祭でのPTAの参加を続けていきたい。生徒数が増える中で、地域の方々にも参加していただけるような宣伝方法や内容もPTAの理事会等で検討しなければならない。また、PTAの方々が親睦を図る機会も、考えていかなければならない。
学習指導	家庭学習の充実	1 日平均3時間以上の家庭学習時間確保と自主的な取組により、学力の向上を図る。 A 3.0時間以上 B 2.8時間以上 C 2.6時間以上 D 2.4時間以上 E 2.4時間未満	C	学年末調査時における、1、2年生の家庭学習時間の平均について、1年生2.8時間、2年生2.6時間となっている。2学期にかけて全体的にわずかな増加がみられ、特に1年生の家庭学習時間が改善されたが、3学期では全体的に少し減少している。	各学年の主任、正副担任、教科担当者が協力して、家庭学習習慣の意義について理解させ、家庭学習時間を確保させ、その内容についても改善を促す。家庭学習記録を活用して、目標を立てたり、学習時間の少ない生徒と面談をしたりするなど、具体的な対策をとる。
	教科指導の充実	皆勤率学年平均60%を目指し、自己管理能力を育成するとともに、小テストや課題の精選等きめ細かな指導により、学力の向上を図る。授業公開週間や授業、相互授業参観などを積極的に実施し、各教員の授業力を向上させる。 A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 45%以上 E 45%未満	E	学年末の各学年の皆勤率は、1年生25.9%、2年生29.3%、3年生37.5%となっており、全学年とも目標を達成できていない。各教科とも小テスト等を定期的に実施しており、課題も適切に出し、生徒の基礎学力向上に取り組んだ。研究授業などを通して、各教員が授業の改善に努めた。	どの学年も、2学期以降に欠席者が増加する傾向があり、面談をするなどより細やかな指導を行う。全学年の皆勤率が例年に比べて非常に低かった。日頃から、生徒一人一人の動向に注意し、教科指導、生活指導ともに、個々に適した指導方法を工夫する。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	心のこもった挨拶の励行、身だしなみの徹底100%、5分前登校の徹底、交通安全の推進を通して保護者、地域の方々との連携を深め、校内外での事故・事件・違反ゼロを目指す。安心、安全な学校生活環境を構築する。	B	マスク着用の影響もあり、口元が見えにくく、声の大きさも若干控えめであるように感じるが、概ね挨拶はできていると感じる。事故の発生状況については、自損事故を含め数件確認されたが、大きな事故には至らず、ヘルメット着用等、安全に気をつけて登下校できている。	身だしなみ規定に関して、現在の社会状況に即したきまりに変更していきたい。
特別活動	自主的活動の充実	ボランティア活動、生徒会活動、学校行事に主体的に参加させる。	B	体育祭、高校祭ともに平常開催ができた。生徒数減少の中で生徒それぞれが積極的に行事に関わっていると感じる。	生徒数が増えている中で、行事内容の再検討や精選が必要である。
進路指導	進学指導の充実	面接週間も活用しながら、1,2年生は各学期2回以上、3年生は年間10回以上の面接を実施する。	B	年間通して継続的な面接を各学年において担任が中心となって実施することができた。	担任だけでなく、副担任や学年付の先生など多くの教員に協力してもらいながら、面接を実施できるよう呼び掛けていく。
		進学習目標達成の満足度100%を目指す。	A	アンケートで進路目標達成満足度100%を達成することができた。	志望校・志望学科の決定が遅い生徒が特に不合格となる場合が目立った。進路課員も協力し、生徒一人一人の進路先決定のサポートをしていく。
	難関大及び国公立大10名以上の合格を目指す。 A 10名以上 B 7名以上 C 5名以上 D 3名以上 E 2名以下	B	国公立大学受験結果は、学校推薦型・総合型入試出願8名中6名が合格した。一般においても3名の国公立大学の合格することができたが10名の目標には一歩届かなかった。	国公立大学を中心に大学等が主催する各種行事に関する情報発信および参加の促進やオープンキャンパスへの参加の呼びかけを行い、希望進路の学術分野に関する見識を深めさせる。1年次から補習や土曜セミナー等の取組によって全国模試の対応を行い、確かな学力の定着と進路意識の向上を図ることによって、I類型を希望する生徒数の増加を目指す。	
就職指導の充実	就職希望者全員の就職を実現させる。商業科目選択者は複数資格取得率100%を目指す。	B	就職希望者6名(うち公務員2名)全員が年内に内定をいただいた。資格取得は1月・2月に検定試験が残っているのでそこで合格者を増やしたい。	ミスマッチで早期退職とならないように、生徒・保護者の希望に沿った進路指導を進めていきたい。資格取得は出題内容が変わっているものが多くなったので、しっかり対応し、合格者を増やしていきたい。	
保健管理	保健管理の充実	毎日の健康観察や毎月の安全点検・報告により、健康、安全意識を高め、日本スポーツ振興センター申請件数減を目指す。保健だよりや衛生講習を通して、保健指導の機会を確保するとともに、自らが自分の健康を管理していく力を身につけさせる。	B	コロナは第5類になったものの感染対策は気を抜かず、日々の健康観察、学校での生活様式のあり方等について、呼びかけや環境の改善等で予防に努めた。怪我や熱中症についても、保健だより等で予防を喚起することができた。悩みの調査等も参考に心身の健康面にも注意を払い、その都度担任や学年で対応した。	日本スポーツ振興センター申請件数は少なからずあるため、次年度も安全点検や啓発活動を継続していきたい。精神的な要因からくる体調不良を訴える生徒の把握に努め、心身ともに健康になれるよう、教職員全体で対応するように努めたい。
業務改善	職務の効率化及び快適で働きがいのある職場環境の整備	会議の精選、職員提出書や職員・保護者連絡等のペーパーレス化、不要な押印の廃止など、職務全般に効率化を図る。魅力的な学校づくりを通して、多忙感の解消及び職務充実感を高める。	C	校務系のメッセージ機能やマテコメールの活用によるペーパーレス化等については、一定の進捗を図れた。不要な押印の廃止も進めることができています。新型コロナウイルス感染症第5類移行に伴い、各種学校行事や校外研修等も復活してきており、家庭・関係機関との連携調整も含め業務の精選を進めることができなかった。	事務処理の効率化、会議の精選、書類のペーパーレス化等を一層進める。振替休暇の確実な取得、年次有給休暇の取得しやすい雰囲気作り、働きがいのある職場環境の一層の充実を図るなど、教職員の働き方改革の視点での業務改善を進める。

※ 評価は5段階 (A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
読書指導	図書館指導の充実	「朝の読書の時間」の改善や呼びかけ等により、図書館の利用につなげる。読書を通じて読解力の向上を目指す。 平均貸出数 A 7.0冊以上 B 6.0冊以上 C 5.0冊以上 D 4.0冊以上 E 3.0冊未満	A	貸出総数は1,438冊、平均8.3冊（3/16日現在）である。 参考：昨年度平均6.1冊（最終） 電子書籍の貸出総数は97冊である（3/16日現在）。検定本や進路サポート、料理本などの利用が多い。	「朝の読書」の時間における読書活動は、校長の呼びかけもあり、昨年度より活性化している。また、ビブリオ・ライティングやバーコード利用による貸出といった利便性の手助けもあり、全体的に若干の読書意識の向上がみられる。継続して啓発などを行っていききたい。 電子図書サービスを利用した、読書意識の高揚と積極的な利用を促していく。
情報教育	ホームページの充実	CMS方式によるタイムリーな情報発信を行う。また、個人情報保護に努める。 HP更新回数 A 週7回以上 B 週5回以上 C 週3回以上 D 週3回未満 E 更新なし	B	年間を通してのHP更新回数は週5.0回であった。	基本的には、各割当て（当番）の順守を徹底する。 各学校行事や部活動、生徒会活動などについては、HPの割り当て当番になっていなくても、生徒の様子などを随時の発信していく。
	教育支援クラウドサービス	Microsoft365教職員理解度100%	B	アンケートの結果、基本的な操作ができる割合は97%であった。基本的な操作ができないと回答した人は1名であった。	さらに理解度を深められるような研修の機会を継続できる方向で検討したい。 アンケートなどはFormsを基本とし、実際に使う場面を増やすようにする。
教相育談	教育相談の充実	生徒が抱える問題の早期発見に努め、不登校生徒ゼロを目指す。	B	関係職員との連携もスムーズで、SLAIによる呼び出し相談も充実させることができた。悩みの調査に表れる精神的な不調についても関係職員と対応することができた。	最終的には職員全体で情報を共有できるが、タイムリーに全体で共有できるようにできないかと、課題を感じる。
特別支援教育	特別支援教育の充実	生徒の実態を把握し、SLAや支援員との連携を図り、計画に基づいた支援を進めることにより、学校生活を円滑に送らせる。校内委員会、ケース会議などで、情報の共有、連携した支援体制の構築を図り、該当生徒を集団で支援する体制を作る。	B	支援員の協力のもと、生徒の課題や困り感への対応をその都度行ってきたが、生徒自身の課題を将来につながるよう改善するには至っていない。	支援を要する生徒への対応策を多くの職員に共有し、より多くの生徒への対応を充実させていきたい。また、課題をもつ生徒一人一人が、自ら課題を改善していくようにさせたい。
同和・人権教育	人権意識の高揚	年間5回以上の研修や研究活動、交流学习等の人権委員会活動を活性化させ、人権意識を高めることにより、人権問題の解決を図る実践力を養う。 A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回 E 1回以下	B	人権委員会の校内での研修は、概ね計画通りに実施しており、人権意識の高揚を図っている。一方、異校種や地域の事業所等との交流活動については昨年度までと大きく変わっていない。	人権委員にはリーダーとしての役割が期待されたため、地域との交流活動を通して多様な考えにふれられる機会を充実させたい。正しい判断力・行動力を身に付けることで、校内での活動に還元していけると考える。
農業教育	農業後継者育成指導の充実	農業の担い手を育てる。 卒業生の担い手率 A 12.5%以上 B 10%以上 C 7.5%以上 D 5%以上 E 5%未満	A	19名中3人で15.7%であった。	農業の担い手予定者は3名で、昨年度と同数である。本年度は進学先として畜産科から初めて、鹿児島大学共同獣医学部畜産学科への合格者を輩出することができた。今後も高校在学中の先進農家見学や営農講演会等を通して、農業への意識付けを行い、農業を支える人材を一人でも多く育成していきたい。
	農業クラブ活動の充実	農業クラブ県大会の各種発表・競技会において優秀賞1つ以上、全国大会での優秀賞1つ以上を目指す。 入賞率 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 40%以上 E 40%未満	B	家畜審査競技県大会 乳牛の部 最優秀賞・優秀賞 肉牛の部 優秀賞 総合の部 優秀賞 第1回各種発表県大会 意見発表（分野Ⅰ類）最優秀賞（分野Ⅱ・Ⅲ類）優秀賞 農業クラブ四国大会 意見発表（分野Ⅰ類）最優秀賞 第2回各種発表県大会 意見発表（分野Ⅲ類）優秀賞	全国大会での入賞は果たせなかったが、各種発表及び競技会において今年度も継続して成果を残している。生徒の地道な努力や携わる教員の熱意を持った指導など、現在の指導体制を今後も継続していきたい。また、今年度は「いやしの南予BBQ甲子園」に出場し、技能賞を受賞することができた。今後も農業関連のコンクール・コンテスト等にも積極的に取り組んでいきたい。
学校魅力推進	全国募集の充実および公営塾の円滑な運営	地域みらい留学などの活動を通して効果的な全国募集を行い、本校への入学志願者数を増やす。公営塾の運営、地域連携型の探究活動を円滑に行い、魅力のある学校を目指す。	C	本年度は、畜産科と生徒による野村高校の魅力伝える工夫ある発表を行い、なかでも、地域みらい留学生の生の声を聞いていただいたことが県外生徒にとっても喜んでもらえたようだった。バスツアーでは2名（夏、秋1名ずつ）、また個別に4名の計6名の県内外生徒が本校を訪問してくれ、学校全体で丁寧な対応ができたと考えている。	他学校との差別化をはかるアピール方法を変えていきたいと感じている。女子下宿先については少しずつ動き始めており、安全・安心な住環境を整えていきたいと考えている。今後も地域の方々に関わっていただきながら、本校の生徒の活動を発信していきたい。
寮務	基本的な生活習慣の確立と安全管理の徹底	点呼、巡視による生活指導や設備などの点検を行い、寮内での事故をゼロにする。さらに、社会人に向けての準備期間として、自立した生活態度を身に付けさせる。	C	寮内での事故はほとんどなかった。毎朝の点呼時に寝坊してくる生徒、夕食を定時までに食べない生徒があり、その都度舎監の指導を受けている。基本的な生活習慣を身に付けることの大事さを根気強く指導する必要がある。	コロナが5類になったことで、今まで自粛していた行事（クリスマス会など）を寮母さんのご協力で行うことができた。家を離れての集団生活の不慣れさ、不自由さはあると思うが、集団生活で身につくこと、体験できること、も味わわせながら、自立に向けての生活習慣を身に付けさせたい。
施設管理	教育環境の整備充実	学習環境の充実・向上を図るとともに、施設・物品の修繕は早期対応に取り組む。	C	日頃から生徒、職員の環境整備により、校内は美しく保たれている。 修繕においては、体育館の照明・床修繕、教員住宅修繕、職員室エアコンの修繕を行うことができた。しかし予算の関係で、牛舎の照明については今年度対応できなかった。	施設の長寿命命化に向けた計画に沿って取り組むとともに、学習環境の充実を図る。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。